

東北新報

本報創刊二十三年 郵政特准第一種郵便 社址 仙台市青葉区 電話 二二二二 印刷 仙台市 印刷局

平町上水道擴張工費三十
七萬圓を計上して、平町
の人口五萬人に達する迄
の積極的設計を爲して町
會の議決を経日下内務省
に稟請中であるが、この
程に至りて野崎が外五
名の町議と共に反對の輿
論喚起を奮起してあるば
かりでなく、反對の陳情
書を町當局へ提出する。
その他手段を盡してある
のみか、聲明書を發表し
て三萬町民へ訴へ、昨三
十日の町會に於て、野崎
町議が五名、反對町議と
共に激戦を繰り返して奮
闘するに至つた。

電燈値下問題は 委員七名を挙げ

昨日の町會で漸く決定
時期を見て運動開始

起債反對派は 次回に建議案を

然し問題ではないと
一部では問題にせず

平町當局が提案し満場一
致決議を了し、稟請中であ
る問題を、忘れたやうな
頃に野崎町議外五名が反
対の渦巻きを起したの
が、それか赤誠からと
して、何等の理由があ
るとしても、能く平町
民執つて喜ぶべきか、悲
しむべきか、笑ふべきか
その何れにしても、野崎
君は水の問題ではいろいろ
の噂のある人であり、
水には縁のある男でもあ
るし、不思議な因縁であ
るとも、能く平町

んがため、反對派の策動は何等効なきもの、傳へられ
は何等恐る所なくして一從つて反對の建議案は結局
起債認可の運動に邁進す提出されぬもの、傳へられ
るものと見られておるから居る
反對派の建議案なるもの

六十圓の運賃が 一萬六千圓となる

全国的に珍らしい事故

去る二十三日信越線柏崎から
常磐線湯本驛九通宛に送ら
れた日本石油株式會社の増
運賃の品名相違の増運賃
額油積貨切貨車一車十噸を
加へ一萬六千七百二十六
圓七角一分が二十七角着驛
湯本で内容が油積でなく危
險品の揮發油であることが
発見され鐵道規則により原
連賃の五十一圓といふ所危
險品扱ひにして五十九圓取
調への上鐵道省の指示を

内郷村島田醫者の 愛妾おヨネさん

高坂で腕時計を強奪さる
廿五六歳のジャケツ男に

平町才地小路荒垣ヨネ(二五)が去る二十九日午後
七時頃石城郡内郷村大字高坂地内道路を通行中突
然一名の怪漢がおどろけ出て同人が極力抵抗するを
押し倒し左腕にかけて金腕時計計價格六十圓を
強奪して逃走した事平署に届け出たので平署では
近來にない辻強盗であるとなし犯人嚴探中

おヨネさん

當時の模様を語る
犯人は年齢廿五六歳前後
の中肉中背の男でジャケ
ツを着た長髪の青年であ
ります。何んでも警城炭
礦専用軌道の高坂ガード

腕時計強奪事件は平署でも
近來の佳事件として全力を
挙げ犯人逮捕に努力して
るが、問題なのはヨネ
は石城郡内郷村醫師島田某
の愛妾であり殊に同人は兎
角の風評を傳へられて
求として町會に於いて四倉
漁港の修築を議決し遂に農
林省に對し調査技術官派
ん方を申請中であつたが農
林省でも地方振興上適當な
ものと認め二十九日同省水
産局の小田技師外一名派
ん一行は昨三十日四倉町に
來り實地説明のため同行し
て來た縣の山口技師、須
技手等と共に詳細調査を
したが今回調査の結果可能
性ありと認定され、ば將來
縣の事業として施行される
こととなるので同技師一行
の調査は重要視されてゐる

農林省技師 四倉漁港調査

四倉町では地方漁業の振興
の爲め、其の筋へ申
したものでないかと傳へら
れてゐるが平署では更に同
方面にも調査の歩をす、め
てゐる

冠水後の 鎌入に注意

那農會注意書配布
目下鎌入期にある石城地方
の水田中約七割の五千町歩
は過般の暴風雨で全部冠水
したため乾燥の程の關係
から鎌入が自然おくれる
こととなり農家では思はざ
る被害に全く困惑し居る
が石城郡農會では一歩鎌入
れをせよと米質を悪く
し石城米の聲價を失墜せし
めることとなる恐れあるの
で二十九日各町村農會に
いし排水ならびに乾草を
よくする様注意書を配布し
た

木炭検査員會議

濱三郡木炭検査員會議は十
一月六日午前十時から富岡
町公會堂に開催需要期も迫
つたので品質改良其の他の
協議をなす

四倉消防檢閲

四倉町に於ける秋季消防檢
閲は三十一日午前八時から
同町警察署前に於て執行し

△酌婦に亂暴を
内郷村宮本竹義雄(二六)は
去る二十五日午後七時頃同
村宮飲食店高坂ハル方に至
り飲酒を強要した上酌婦に
亂暴を働きたるに檢擧され

旅費を脅喝

宮の興三郎
内郷村宮瀧澤徳松方居住久
保田興三郎(二六)は去る二
十七日午後九時頃同村高
松三久郎方に至り東京迄の
旅費をせよと同人を脅喝
した事平署で探知三十一日
同人を檢擧取調中

暴行を働か 告訴さる

小名濱町古港料理店木幡直
(三九)は同町米野平野安
(三七)外一名を相手取り三
十一日平署に傷害の告訴を
提起した理由は平野外
名は二十四日午後九時頃泥
酔して前記木幡の家に至り
飲酒を強要した上兩戸を破
りその上暴行を働いた爲め
である

有聲座の割引券あり
白銀町 丸山雜貨店

塔中の怪

無名氏 (九)

私は何んもなく心安からず、郁文等の各中學まで日本を感じた。これが長き哀しき銀行、郵船會社、高田商會別れにならうとは。

大學の課業は午前八時に船宿の借ボートまでが竹始まつて正午に終るのが例屋の渡場の邊から白ひげのであつた。放校後勉強家は森かげ落つる上流まで點々歸らぬ、ここに此頃、私の仲間は直ぐ艇庫からボートを乗り出した。私は四時頃、若葉は水も五日以前の柔道の勝負に少し、らんばかり野山にし、右の腕をくわいて居つた。南の風にヒラヒラと散りやなり、四番も校舎を出ると空には驚が處が、一番に氣樂で御座ると、ビートと舞ひ水には無二無二に舵手の位置を奪メダカまでが、面白相につてしまつた。風は涼しい日おとつてゐる。此景色を見はうら、かた、實に壯快なてさへ早や心が浮き立つの景色、先つ水門のほとり、に彼方の野邊にはボールを力漕を試み、それよりいぢ野球健兒あり、此方のコトにはしきりにラケットの、大橋の邊まで漕ぎ上り、を揮ふテニスの團體あり、一、スの利に乗じては、譯もなわれ等とて何條たたらん、直ちに類をもつて集るボート仲間と共に黒江を指して押しよせた。黒江のほとり、昨日の櫻は大方散つてゆきて、今には浮世の事も學校の事も、家の事も、それから、たあの可愛らしき雪子嬢の事も、けさ別れる時のなんとなく、淋し相なりし其面影をも、全く打ちわすれて、ひるがへる十数日以前の盛んな光景はないが、それでも此處となく、こぎ廻つて居る廣い世の中には、私、同じ様に、空には夕やけの雲、赤く見渡に遊びすきの連中は、なかな、す水の面には、ボートの數も、多しもの見え、かならん、餘程少なくなつたので、わの葉を、ききとせ、一高のボートをはじめとし、商業學校等は、ボートも洗場のほとり、學習院、開成、石北、錦城に、オールを流して、歸らんか。

冬限の櫛

女學生通學用オーバ
小學生通學用オーバ
中學學生金ボタン外套

特賣

正札堂洋服店
平四丁目(驛前通)

原野村芳亭 野田高倍 小田濱太郎 浦波順慶子 助演

雲雀鳴く里

主八雲惠美子 中絹代 結良真 城一郎

十月三十一日寫眞替り

平館

清川莊司 主演
常磐操子 助演
櫻井京子

電話四六六番

大團陣 全
氣貫注、火花と化して、凄氣、横溢、戀をめぐりて、哀愁味ある大劇陣

平看護婦會

會長 清野キヨ
平字南町電話三〇七番

看護婦派出の需めに應ず

阿康藥店

縣社下古鍛冶町(電話四四四番)

靈藥ムテキ
切斷の苦しみなく……
ゆびはれ、やけど、淋病、梅毒、さきり、乳はれ、くさ、りう、まら、す、其他化膿するもの一切

發賣元 阿康藥店

大平屋藥舖

電話六四二番


特約店 大平屋藥舖

回實感希望者は郵券廿錢封入左記本舖へ申込あれ
試用藥と浸透療法の小冊子を郵送す
大阪市此花區吉野町一丁目 吉松醫院製劑部

藤居商店

平町三丁目 電話五四三番

内外果實問屋



時計の御用は一直線に

ダイヤ堂

確實…迅速…親切…廉價!

時計・眼鏡・蓄音機・貴金屬
ピクチャーレコード特約店

ダイヤ堂 鈴木時計店
福島縣平野前(新道)
電話(呼)八〇五番

ベルツ丸

梅毒と體毒を
切らず…注射せず…治す
獨逸のベルツ博士の發見

悩み苦しむ人々よ…速刻服用して其偉効を味はれよ

藥價(輕症用三圓、重症用五圓、頑固用拾圓)
藥價(根切徳用廿圓、試用二圓、一圓)
平町五丁目角

地方一手特約店 山野邊藥局

淋病消力チの妙藥

東京 峰岸淋丹

分舖

一週間分金二圓七十錢 二週間分金五圓 三週間分金七圓
平町南町火の界下
御申込次第密送す

玉屋洋品店

冬帽子…ワイシャツ

平町田町通り
電話六五六番